

緩和ケアとソーシャルワーカー

[長崎和則 .(2004年-9月). 巻頭言 . びんご・生と死を考える会会報 34号]
掲載の原稿を一部変更しています。

これまでに行われているさまざまな緩和ケアに関する講演の中で、チームアプローチの大切さについて触れられています。そして、チームアプローチに関わる専門職の中には、主治医の他に、必要に応じてその他の専門診療科、精神神経科、リハビリテーション科の医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、そして、(医療)ソーシャルワーカーがいます。その他、病院ボランティア、宗教家等の参加も考えられる。

しかし、ソーシャルワーカーとはどのようなことを行う人なのかについては、今ひとつ分からないというのが本音ではないでしょうか。

今回は、緩和ケアでソーシャルワーカーがどのようなことを行うのかについて、紹介します。

ソーシャルワーカーは、弱い立場にある人(高齢者、児童、障害をもつ人、患者)を社会的な状況の中の人としてとらえます。そして、弱い立場であるために、その人のニーズ(人間として誰にでもある基本的な欲求)が満たされなかったり、そのことによって自分らしく生きていくことができなかつたりする状況を改善しようとしています。改善するのは、状況であって、その人ではないということが重要なところです。

例えば、ガンになったとします。そうすると、いろいろな症状が出てきますし、痛みも強くなります。そして、治療を受けることとなります。このときに、治療のために必要であれば、入院することになるでしょうし、そのことに伴って生活が制限されます。

治るためには必要なことですから、仕方ないと考えますね。

これが末期で、積極的治療によって治ることはないという状況になったとします。そうすると、治す医療ではなく、痛みや苦しみを取り除き、その人が残りの人生を悔いなく過ごすことの方が大切になってきます。これが緩和ケアです。

しかし、いろいろなことが関係して、本人が望む生活ができなくなってしまうことがあります。これは、平たく言えば、その人の人としての尊厳が守られていないということになります。ソーシャルワーカーは、このような状況をよくないと考え、改善しようとしています。

この背景には、弱い立場の人は、強い立場の人の都合でその行動等が制限されてしまうのだということがあります。先の例では、ガンになった人が弱い立場の人です。医療との関係になると、家族も弱い立場の人の中に入ります。しかし、状況によっては、家族は強い立場の人になってしまうことも起こってきます。ガンになった人との関係では、そうなることが多いですね。

そのような状況の中で、弱い立場の人の希望や意見はどうしても尊重されにくくなります。「病気だから」、「痛みがあるから」、「医師の治療方針と異なるから」、「家族に迷惑をかけるから」、「緩和ケアの施設がないから」、「本人にガンであることを伝えていないから」……などという理由で本人の望みや意見は退けられてしまいます。

* * * * *

「それってやっぱりその人を尊重していないってことじゃないの？」

こう思っただけだと嬉しいのですが。ソーシャルワーカーはそう考えます。そして、当事者の側に立ち、周囲の人に働きかけ、その人の望みや意見が実現できるように調整（コーディネート）するのです。

もちろん、当事者や家族、その他の専門職の意見を聞くためには、カウンセリングをしなければなりません。でも、話を聞いて心の癒しをはかるだけではなく、その人の思うことや望むことが実現できるようにすることが目標としてあります。

また、家族に全ての負担がかかってはいけませんから、いろいろな制度（例えば緩和ケアのための施設やホームヘルプサービスなど）を利用できるようにすることも重要です。

本人の立場に立つと、よいと思われることであっても、それだけを優先してしまい家族との関係を悪くしてまでそのことを強行に行うことは、本人のためにならないことは多くあります。これが一番難しく、大変です。でも、どこかにきっと双方が納得できるところがあるのではないのでしょうか。

病気ではない状況のなかでも、自分の意見が全て通るわけではありません。「海外旅行をしたいけど、不景気で今は無理」とか、「廻っていない寿司を食べたいけど、今月は廻るお寿司で我慢しよう」というふうになんとか折り合いをつけて、納得してものごとを決めていますよね。それと同じ状況を本人と一緒に作っていくという感じです。

ですから、ガンになったからとか、障害があるからとか、寝たきりだからとか、そういうことでそれまで普通に行っていたことができなくなることはよくないと思います。まして、本人の意見を聞くことなく、周囲の人たちだけで勝手に本人に関する物事が決まってしまうことは特によくないといえることになります。

* * * * *

人は、自分のことは自分で決めたいという欲求をもっています。この欲求を尊重し、本人に知らせ、一緒に考え、本人が納得し、そして選択するということが重要なのです。

このことは、「インフォームドコンセント（説明を受けて、納得する）」、「インフォームドチョイス（説明を受けて自分で選ぶ）」、「インフォームドディシジョン（説明をうけて自分で決める）」と言われていています。ソーシャルワーカーが一番大切にすることに、「自己決定」というものがあります。これは、結局、先にあげたことと同じことを指しています。ガンになった人の望みや意見をきちんと聞き、周囲の人たちに伝え、それらが実現できるようにするためには、専門のソーシャルワーカーという存在は重要です。なぜなら、それぞれの人たちは、自分の立場で意見を言うからです。それは当然のことです。だからこそ、意見を言いにくい、そして言っても受け入れてもらいにくい本人の立場に立って、当事者の代弁（アドボカシー）を行うための専門職としてのソーシャルワーカーはチームアプローチに重要かつ不可欠なのです。